

第5回 教室『学び合い』フォーラム2009

CHANGE -教室は変わる-

主催 子供に学ぶ教師の会
 後援 新潟県教育委員会
 新潟市教育委員会
 上越教育大学
 臨床教科教育学会

期日 2009年8月1日～2日
 会場 上越教育大学新潟サテライト
 NSG学生総合プラザSTEP



C教室『学び合い』フォーラム

1日目(受付12:30～ NSG学生総合プラザSTEP)

13:00 14:45 16:30 17:30 18:00

開会行事・ 学び合う学校 サミット	『学び合い』 大相談会	分科会1 (研究討議)	解 散	シンポジ ウム
-------------------------	----------------	----------------	--------	------------

2日目(受付9:30～ NSG学生総合プラザSTEP)

10:00 12:00 13:00 14:20 15:30

江口歩さん 講演会	昼 休 み	分科会2 (体験教室)	分科会3 (研究討議)	報告全国の 『学び合い』 の会から・ 閉会行事
--------------	-------------	----------------	----------------	----------------------------------

教室『学び合い』フォーラムキャラクター
まなびあいいぬ



デザイン:美濃山ゆず

C教室『学び合い』フォーラム

会場でオリジナルキャラクター消しゴムハンコを販売しております。数に限りがございますので、お早めにお求めください。



教室『学び合い』フォーラムのホームページ

<http://manabiai.jimdo.com/>

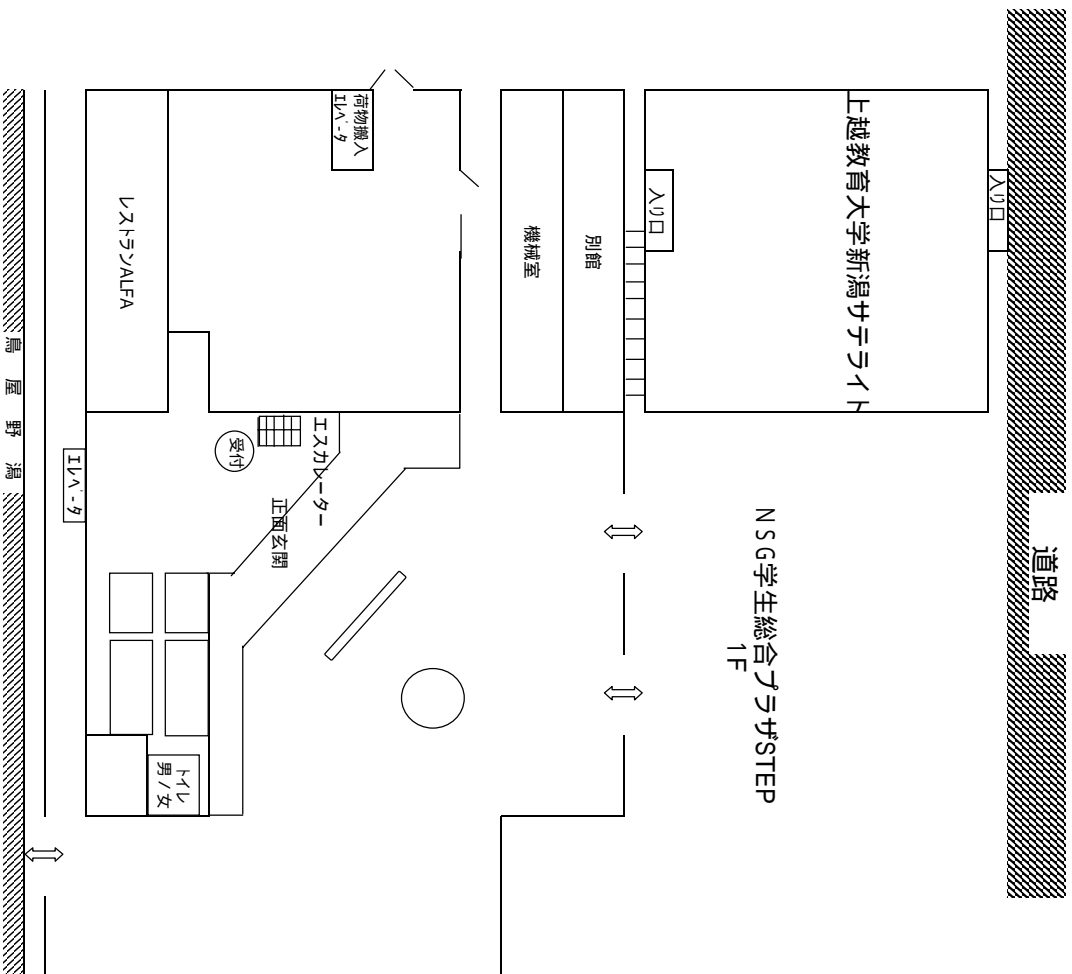
第5回教室『学び合い』フォーラム2009日程

第1日目 12:30～ 受付 於：NSG学生総合プラザSTEP

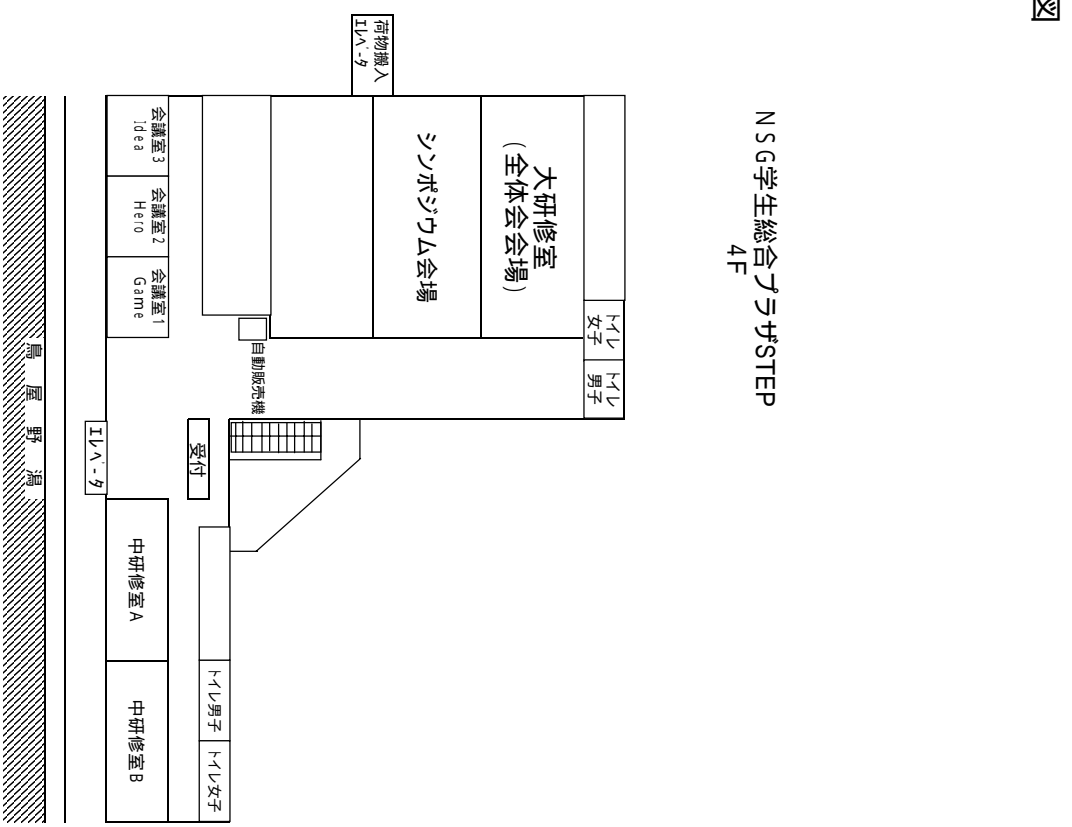
13:00～16:15(195分)【全体会】NSG学生総合プラザSTEP 大研修室			
13:00～ 開会行事 13:10～ 学び合う学校サミット 発表・質疑応答 14:45～ 『学び合い』大相談会(パネルディスカッション&質疑応答)			
16:30～17:30(60分)【分科会1】			
STEP 大研修室	STEP 中研修室《A》	STEP 中研修室《B》	上越教育大学新潟サテライト
公開ゼミ[1] ・星由希 (新潟県五泉市立村松小学校) 「『みんな』でつくるう!ぼくらの授業、ぼくらのクラス!」 ・江川潤 (新潟県新潟市立小林小学校) 「CHANGE 教室は変わる(確かにそうだ)と思うことについて」	公開ゼミ[2] ・佐藤ゆかり (家庭科 上越教育大学) 「『家族みんなが幸せにくらす』～家庭科と『学び合い』～」 ・中根未奈 (群馬県立高崎北高等学校) 「自力で読む図形の証明」	公開ゼミ[3] ・大島崇行 (新潟市立真砂小学校) 「『学び合い』の失敗学～成功体験と失敗体験の分析から～」 ・大原昌浩 (大阪市立茨田北中学校) 「生徒たちが主体的に課題を解決するための教師の働きかけ」	公開ゼミ[4] ・田中治朗 生方直 藤田剛(チーム赤坂 上越教育大学赤坂研究室ゼミ生) ・岩崎太樹 (上越教育大学大学院生) 「今度は教師もCHANGE『学び合い』」
18:00～ シンポジウム(懇親会) 於：NSG学生総合プラザSTEP 大研修室			

第2日目 9:30～ 受付 於：NSG学生総合プラザSTEP

10:00～ 講演会 講師：江口歩(えぐちあゆむ)さん(お笑い集団NAMARA 代表) 演題「コリ固まった脳みそのほぐし方」			
13:00～14:10(70分)【分科会2】 『学び合い』体験教室			
STEP 大研修室《前》	STEP 大研修室《後》	STEP 中研修室《A》	STEP 中研修室《B》
体験教室[1] みんなで群読 ・加藤恭子 (北海道伊達市立東小学校) ・片桐史裕 (新潟県中央工業高校)	体験教室[2] 異学年『学び合い』体験教室～異なる課題の『学び合い』～ ・押田寛正 (富山県富山市立草島小学校)	体験教室[3] NIEで『学び合い』 ・押木和子 (新潟江南高校) 「子ども新聞」を編集する授業	体験教室[4] 学び合い社会科 ・阿部隆幸 (福島県本宮市立糠沢小学校)
14:20～15:20(60分)【分科会3】			
STEP 大研修室	STEP 中研修室《A》	STEP 中研修室《B》	
公開ゼミ[5] 学び合う英語「コミュニケーション・ティーチング」研究実践発表 ・加藤茂夫(新潟大学)他	公開ゼミ[6] 『学び合い』悩み相談室 『学び合い』を实践する上での公にはできないような、うちに秘めた悩みを互いに言い合い、気持ちを少しでも軽くしましょう。	公開ゼミ[7] ・小林秀樹 (新潟県三条市立第一中学校) 「『学び合い』の授業のコツを教えますよ」 ・仲田毅(新潟県立高田高校) 「生徒による自治的な部活動運営のあり方」	
15:30～16:10(40分)【全体会】 NSG学生総合プラザSTEP 大研修室			
報告「全国の『学び合い』の会から」 閉会行事			



会場平面図



『学び合い』大相談会事前受付質問一覧

- 1 クラスに学び合わない...というか、学習そのものに参加しない子がいる場合、「その子のその振る舞いを許す集団」「その子にその振る舞いをさせている集団」に働きかけるしかない、と頭ではわかっているのですが、どうしても「その子」が気になってしまいます。そのヤキモキとどのように付き合えばいいのでしょうか？
- 2 中高の教科担任制において、週に2回程度しか授業がない場合の『学び合い』実践について。
- 3 『学び合い』による学習を受けた子どもたちが上級学校において『学び合い』ではない教え込み型の授業を受ける、という場合が考えられます。子どもたちはうまく適応できるのでしょうか？
- 4 「こういうの(『学び合い』)もありだよな」という空気をしぜ～んに、地域に広げていく作戦について。
- 5 長いスパンで、子どもに取り組ませる場合のよさと、留意点について。
- 6 『学び合い』とテストの関係(『学び合い』でテストをどう捉えているのか等)
- 7 『学び合い』で交換される情報の質と課題達成度との関係
- 8 「学び合い」について、知って間もなく実践が少ない者です。中学数学担当ですが、まずは単元の最後に取り入れています。.....。実践を積み重ねていく留意点を分かりやすくご示唆下さい。

パネルディスカッション & 大相談会

～ このプログラムの願い ～

今、『学び合い』は急速に広まっています。フォーラムを始めた5年前には考えられなかったくらいです。しかし、喜んでばかりはいられません。

『学び合い』は、救わなくてはいけない教室を本当に救えているのでしょうか？

全ての教室で本当に「結果」は出ているのでしょうか？

苦しい状況はまだたくさんあります。

この苦しい現状を打破するために、私たちは『学び合い』に可能性を感じています。全国の教室に『学び合い』を届け「結果」を出すために必要なこと。それをパネリストの先生方のお話をもとに、皆さんと一緒に考えたいと願っています。

～ パネリスト紹介 ～

土作彰 先生（奈良県広陵町立広陵西小学校）

授業づくり、学級づくりの現役実践家。

1998年に、学校の教育活動において使えるちょっとしたネタ（＝教育技術）の研究を目的とした「日本教育ミニネタ研究会」を立ち上げる。

2004年には、「学級づくり」改革ネットワークを設立し、上越教育大学准教授の赤坂真二氏、「七つの習慣 小学校実践記」千葉の渡邊尚久氏とともに、全国を縦断中。

著書『教室に笑顔が溢れる学級づくりのコツ&ミニネタ101（学事出版）他、多数。

三崎隆 先生（信州大学教育学部）

『学び合い』のスペシャリスト。

個に応じる指導をライフ・ワークにして一人一人を生かす教育のあり方を模索する。大学院で認知スタイルに着目して子どもたちがどのようにして自然現象を認識しているのかについて研究し、従来の個に応じる指導のあり方の限界を説く。『学び合い』の考え方に共感し、その理論と実践を推し進める。全国各地の学校現場からの要請による『学び合い』ライブ出前授業を展開中。

宮崎紗智代 先生（埼玉県久喜市立本町小学校）

『学び合い』のチャレンジャー。

『勉強しなさい！』を言わない授業』（西川純 著、東洋館出版）を読み、『学び合い』と出会う。アドラー心理学と『学び合い』をまとめた卒業論文を作成し、卒業論文発表会では、『学び合い』の存在をアピール。

新採用1年目から、教室に「学び合う文化」を作ることを目指して実践中。「おにぎり」の会（『学び合い』東京の会）実行委員。

里公小学校の『学び合い』

1 『学び合い』の姿

H21.8.1

平成 19 年 11 月 2 日(金)4 時間目 6 年社会(歴史)
 課題:「日本が中国で勝った戦争は、どのような戦争だったのだろうか。」
 □は、女子
 ~一緒に学習したい人と自由にグループを作り(机をくっつける),学習を始める。~

□ 「どっちが悪いの」

SK 「日本だよ。日本が侵略したから、始まったんだよ。」 □ 「えーっ、そうなの？」

OT 「日本が鉄道を爆破した。」など、会話しながら課題に取り組む。

SK 「満州事変、ないや。」

□ 「じゃあ、私が調べてあげる。」と言って、SK の持っていた国語辞典をもらって調べ、「満州事変ないよ。」

SK 「満州って、どこ？」

OT 「ほら、あった。朝鮮の上。」と言って、教科書の地図資料をさしながら、

「ほら、書いてあるよ。『中国から独立して満州国ができた。でも、日本がその実権を握っている』って書いてあるよ。」

SK 「太平洋戦争と違うの？」 OT 「違うよ。太平洋戦争はもっと後だよ。」

□ が別のグループの SA の所に、満州事変について聞きに行く。

□ 「満州事変から、日中戦争が始まるの？」

SA 「なすり合いだよ。鉄道を爆破したのがだれかと、日本と中国がなすり合ったんだよ。」

□ 「日本軍が満州の鉄道を爆破して、中国のせいにして、中国に攻撃した？」

OS 「えっ、日本軍がばくはしたの？つまり、日本軍が爆破して、中国人のせいにして、しかけていったの？」

□ 「まとめようよ。どうまとめる？」「日本軍が中国の領土を得ようとして攻撃をかけた。」

KT 「えっ、でも、日本は、中国から、満州国を独立させているよ。」・・・

他のグループへ様子を見に行ったり、相談や質問をしに行ったりするために、いつでも立ち歩いてよいことにしてある。



2 『学び合い』の取組・・・1 年目：平成 19 年 5 月下旬から 6 年社会科で開始

10 月から 6 年算数、5 年算数で実施

6 年社会科の問題
 進度が遅れがちになり、学年終了までに教科書の内容を十分に教えることが困難である。
 意欲が高まる課題設定が難しく、問題解決(追究)型の授業が仕組みにくい。
 学級の間人間関係もいまいちであった。

成 果
 年間指導計画通りに学習が進む。
 課題解決に向けて、子どもの活動が学習の中心となる。
 男女の仲がよくなった。
 人間関係がよくなってきた。
 社会テストの全国平均点を上回る子どもが増加した。(開始前 65.2%,2 学期 76.1%,3 学期 85.9%)
 卒業式の 6 年間の思い出発表で、「里公小で一番意味があったのは学び合いの授業である。」と自らの学習を価値付ける子どもが多数いた。

『学び合い』を始めましょう。
 校長



社会科での『学び合い』の成果がでてきた 6 年は、10 月から算数でも『学び合い』を始めることにした。そんな時、5 年学級でいじめ事件発生。人間関係がよくなかったことが発覚した。それを克服するために、5 年生でも算数の『学び合い』を開始した。時々、5・6 年異学年交流学习(算数)も行った。

その結果、5 年の人間関係が向上し、いたづらがなくなり、いざこざが減った。また、5・6 年の関係が今までよりよくなり、委員会活動や縦割り班活動等で協力する姿が多く見られるようになった。その後、6 年生になっても算数で『学び合い』を続け、NRT 学力検査の偏差値が 5 年のときよりも 4.3 ポイントよくなった。

2 年目：平成 20 年 4 月から 6 年算数・社会、3 年 1 組算数で実施、2 学期から 5 年算数で実施

3 年目：平成 21 年 4 月から 6 年算数・社会、5 月から 5 年算数、4 年 1 組算数、3 年算数で開始

前年度までの『学び合い』による授業では、人間関係が改善され、男女問わず学び合い・教え合いが成立するようになると、学級全体の成績は格段に伸びることが確認されている。本年は研究主題を「『学び合い、高め合う子』を具現する授業」とし、子どもたちが興味・関心を沸き立たせ、学級の友達と人間関係を深めながら、今の自分自身を高めていくという授業を目指すことにした。

西川研究室の『学び合い』にとられることなく、広い意味で「学び合い」を考えて授業を積み重ねている。現在、『学び合い』を実施しているのは 4/9 学級。



3 課題

教授は子どもに任せているので教科書以外や地域素材等に学習が広がりにくいことが分かった。学習環境を整える教師の役割を考えていかなければならない。

〒943-0231
 新潟県上越市三和区鴨井 710
 上越市立里公小学校 川合澄江
 025 532 2014

学び合う学校サミット資料

- 1 学校名 五泉市立村松小学校
- 2 所在地 新潟県五泉市城下1丁目865番地
- 3 取組紹介

(1) 『学び合い』に取り組んだきっかけ

学習に関する課題から

村松小学校の学習に関する課題は、「子どもの学習意欲の向上」と「思考力・表現力の向上」の2点である。この課題を解決するためには、授業改善が必要であり、そこで出会ったのが『学び合い』という考え方であった。

上越教育大学との連携から

『学び合い』という授業観について研修を始めた頃、上越教育大学教職大学院准教授の水落芳明先生からご指導を受ける機会をいただいた。それ以来何度も来校していただき、水落先生から授業を見ていただいたり、授業をしていただいたりするなど、理論と実践の両面で支えていただいている。

(2) 『学び合い』の取組の内容

研究内容について

昨年度より、研究主題を「学び合い、考えを深める子どもの育成～考えの交流を重視した授業の改善～」とし、たくさんの授業をお互いに公開し合い、『学び合い』についての共通理解を図ってきた。今年度は次の2点を研究内容として取り組んでいる。

追究意欲を高めたり、持続させたりする課題や学習活動の在り方について明らかにすること
活発に交流させ、自分の考えを深め、変容させるための手立てである「可視化」について探ること
(「可視化」= 広めたい児童の考えや交流の様子などを賞賛や提示によってみんなに分かるようにすること)

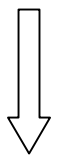
取組の実際(実践例6年1組「合同の図形」)

第1課題 「全員が辺や角を3つ使って、合同な三角形をかけるようになりましょう。」



自由交流・全体交流(=可視化を通して、考え方の共有化を図った。)

第2課題 「3つの角が分かっている三角形と合同な三角形はかけますか。」



自由交流(=「かける!」「かけない!」など子どものつづやきなどの可視化を通して、活発な交流を促した。)

算数が苦手な子どもであっても、問題意識を高め、意欲的に学習する姿が見られた。

算数が得意な子どもは、何度も「できない」理由を説明する中で、自分の考えを深める姿が見られた。

振り返り(=学習した内容や、交流の様子についての振り返りを記述した。)

4 成果と課題

どの子どもも自由交流において自分の考えを表出したり、自分の学びを振り返り、記述したりできるようになった。

子どもたちが、問題を解決しようと、学び合いながら意欲的に学習に取り組むようになった。

子どもたちは自分の考えを記述できるようになったが、課題解決の内容や方法を端的に分かりやすく説明するという点においてはまだ十分とは言えない。思考力・判断力・表現力を一層伸ばす必要がある。

「可視化」を内容面では「子どもの考え」「交流の様子」「意欲的な取組の様子」、方法では「賞賛」と「提示」に分類・整理した。今後はそれを基に、それぞれの「可視化」の意味付けを行い、考えの深まりや活発な交流を促す「可視化」の有効性を検証していく必要がある。

生坂中の『学び合い』との出会いと今後の課題

長野県生坂中学校 古厩 一

1 私たちが一生懸命に取り組んできたこと、取り組もうとしてきたこと

(1) 問題解決学習への取り組み

(2) めざしてきたのは、教師主導の授業でなく、生徒の活動を中心の授業であったが、

2 新しい学習指導要領が示され、「学力」の向上が叫ばれています

(1) 授業改革

授業改革の必要なことが語られています。数学や漢字のドリル、課題の明確化、評価の明確化、職員集団の同僚化が必要だとして、「一人一授業公開」などの実施を行ったり、行おうとしています。しかし、どれだけの方が、本気で、このような取り組みで成果を上げられるとされているのでしょうか？事実、このようなことはずっと以前から言われ続けてきたことではないのでしょうか？多少の改善を図ることはできても、根本的な解決にはなり得ません。また、大きな成果を上げそれが引き続き行われているなどという報告は聞いたことがありません。残念ながら、ただでさえ忙しく、困難な状態が抜本的に改善できるなどほとんどの人が思っていないのではないのでしょうか？

(2) 発想の転換が必要

教師の良心で様々な取組配慮が行われてきましたが、残念なことに、その結果として、生徒の自主性を奪い、生徒が受身にならざるを得ない状況を作りだしてしまっているのではないかと考えるから教育の原点に立ち返って考え直してみる必要があると考えます。生徒の自発性、自主性を引き出すことに解決の糸口を見つけることだと考えました。 『学び合い』との出会い

3 『学び合い』を知ってしまった

(1) 『学び合い』が生徒や学級集団に与えたもの

(2) 『学び合い』が職員や職員集団に与えたもの

4 今後の課題

(1) 「みんなで、みんなが」の徹底

(2) お互いの成果と課題を職員集団で共有

(3) 小学校との関係、周辺の学校への普及

(4) その他

1 名称 江東区教育委員会 事務局 指導室

2 所在地 東京都江東区東陽4 - 11 - 28

3 取組紹介

- ・ 「学び合い」に取り組んだきっかけ
- ・ 取組の内容、特徴(校内研修や授業研究の様子等)
- ・ 先生方、子どもたちの声
- ・ 感じている成果と課題

教師の役割は「授業を通して子供を育てる」ことにあると考え、初任のころから授業研究を中心に公開授業を数多く行ってきました。そして、そのころは当然のように、教師がぐいぐいと引っ張って行く授業でした。

しかし、御蔵島という伊豆七島にある小さな島の小中学校に教頭として赴任し、少人数の複式学級で授業を行ったところ、教師主導の授業がまったく通じず、子供たち同士が課題を共有し、学び合っている姿を見て驚きました。また、教師一人で行う授業の限界を感じました。

若いころはがむしゃらに自分の理想とする教師像を求めて授業をするのは大切ですが、ある一定年限(私は6年間くらいと思っています)を経過した教員は、早く教師としての指導(力)の限界を悟り、授業のある部分は子供にまかせるべきだと考えるようになりました。

そのころ、西川研究室のHPから、「学び合い」の存在を知り、夏のフォーラムに参加させていただいたのがきっかけです。

当時、校長でしたので、校内研究に「学び合い」を取り入れて研究を進めました。

- ・ 授業を子供に任せることへの不安
- ・ 自分が授業の中心でいたいという自己満足感
- ・ 「HOW TO」を欲しがる風潮の蔓延 等々

により、校内研究での「学び合い」は今一つ活性化しませんでした。(私が異動すると自然にやらなくなってしまいました)ただし、リーダーになれる教員を発掘することができました。

現在の、江東区教育委員会指導室長は、江東区の幼稚園(20)・小学校(43)・中学校(22)の教育内容・人事・服務等を統括する立場ですが、区内の学校に「学び合い」を根づかせるのは、上記のような実態からも難しいと感じています。

しかし、毎月の校園長会・副校園長会や区の幼・小・中の研究会等で「学び合い」の必要性を話していますので、校内研究の主題に「学び合い」(似たような文言も含めて)を設定している学校が増えてきました。さらに、今年の3月28日に江東区教育センターで「学び合いセミナー」を実施するなど、少しずつ江東区を東京都における「学び合い」のメッカにしていきたいと考えています。

「みんな」でつくろう！ぼくらの授業、ぼくらのクラス！

～『学び合い』スピリットが根付いた時～

新潟県五泉市立村松小学校

星 由希

「あ、分かった！！すごく分かっちゃった！！」

昨年、『学び合い』をしながら腑に落ちた時の「実に輝いた子ども達の目」に、ドキリとした。

自分の授業を思い返すと、まずそこに指導案があった。もちろん、心の中では一番に子ども達がいたはずなのに、研究授業では特に、「指導案通りの子ども達の発言」を期待している自分がいた。授業が指導案中心になると、子ども達は教師の言って欲しい発言を模索する。信頼ができていればいるほど、「先生は何を言って欲しいのかな」そんな思いをさせていなかったか・・・自信がない。

その都度、本気で過ごしてきた授業である。後悔はない。ただ、『子ども達の豊かな成長』を願うなら、もっといろいろな授業を知りたい。そう思っていた。

そんな私が『学び合い』に出会い、彼らと歩む中で、以下のような変化を感じるようになった。

「みんななら、きっとできる」自分たちが力を合わせれば何でもできる！

ポジティブな言動が多くなり「自分たちはきっとできる」と、心から信じられるようになった。中学年らしい行動力が、クラスのために大いに発揮されるようになった。(係活動、会社など)

見ている対象が教師ではなく、仲間が中心に！

- ・「先生～していい？」と聞くより、まず友達と相談するようになった。
- ・「さん、説明がすごく上手だよ！」と子供同士で可視化し始めた。
- ・学ぶ対象が教師だけではなく、友達になり、自然と「聴こう」とする態度が育ってきた。
- ・課題を達成した児童を可視化する「がんばり山」を自分たちでかき(最初は教師が書いていたが)解き方で山のコース分けをしてネームプレートを貼った。そして解き方の名前も付けていた。

一つの授業から自然発生的に学び合い、生活に転移するように！

・算数から始まった『学び合い』が体育や音楽などにも広がっていき、やがて、長縄大会の練習などでも学び合うようになった。

『学び合い』に出会って一年。

クラスづくりと共通する核を感じ、自分なりに『学び合い』を咀嚼した上での実践をお話させていただきます。『学び合い』スピリットをもち始めた子ども達の生の声を聴きながら、『学び合い』とクラスづくりについて、一緒に考えましょう。たくさんのご意見、お待ちしております。

プロフィール (公開ゼミの話題提供「題」より)

2006年 「授業は教師で変わる」 ~可視化はテクニックではない~

2007年 「そのとき教師が空気になる」異学年交流における「学び合い」について

~縦割り班での集会活動~

2008年 子どもたちとのかかわりを深める『学び合い』

CHANGE 教室は変わる

~ (確かにそうだ)と思うことについて ~

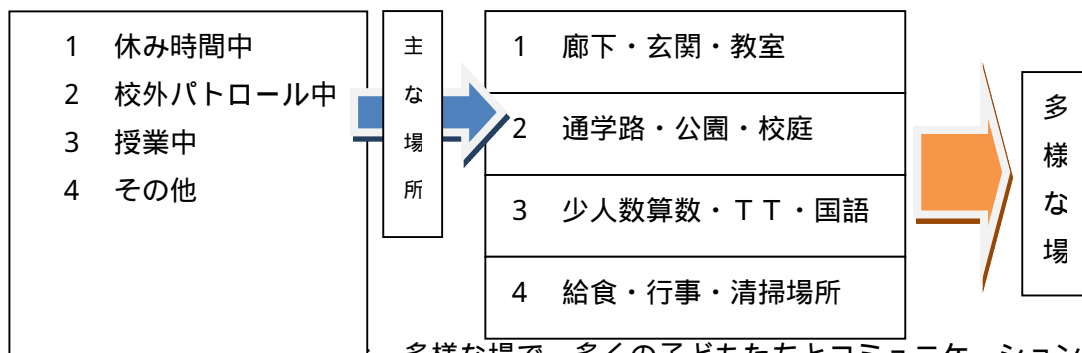
1 はじめに

とりとめもないようなことから述べる。近年,私のニックネームが増えつづけている。現在,教室内では,「ジョン」または「ボブ」が大半をしめている。「タマネギ」「ジャガイモ」と呼ぶ子もいる。低学年は,「笑顔先生」と呼ぶ子が多い。「リケイド」と呼ぶ子もいる。昨年度,前任校では,「シエル」と呼ばれていたこともあった。

子どもたちがつけてくれるニックネームは,どれも心地よい。今年度,新任地でも,多くのニックネームがつけられるのは,「私が『学び合い』実践者だからだ」と,信じて疑わない自分がいる。

2 なぜニックネームが増えるのか

子どもがニックネームで呼ぶときを大まかに分けると,次の4つに分類できる。



エピソードが豊富で,多様な場で,多くの子どもたちとコミュニケーションをとっていることが分かる。

3 それでも,なぜニックネームが増えるのか

西川教授は,「『学び合い』は楽しいですよ」と言う。「子どもたちにとって・・・」であるが,私自信もそう思う。楽しいことは,言われなくてもやる。

たわいもない話からはじまったが,ここでひとまず仮説をたてる。

仮説 江川潤をニックネームで呼ぶ子どもたちは,「面白くて」そうしている。

公開ゼミ発表資料

タイトル “家族みんなが幸せにくらす” ～家庭科と『学び合い』～

所属 上越教育大学 学校教育学部

名前 佐藤 ゆかり

プロフィール

家庭科の授業をもつことになった教師が、元気で子どもと家庭科の授業を紡いでいくためには・・・。

今の自分と自分の生き方という子ども一人ひとりの織りなす内面世界と密接に関わる家庭科の授業の中で、子どもも教師も元気がでてくる授業のあり方を模索しています。

そのために、教室で学んだことが実際の生活とつながっていくような家庭科の授業づくりを目指します。それに加えて、学校現場における家庭科の学習環境や教科に対する理解を高めることの必要性を感じており、戦後の高校教育改革と家庭科及び高校教育の「多様化」における家庭科の課題を明らかにすることにも取り組んでいます。

発表内容

1. 『学び合い』に出会うまで

- ・自分の学びを振り返って～小学校社会科の授業と高校数学の記憶～
- ・自分の授業を振り返って

2. 家庭科の授業における『学び合い』の可能性

- ・子どもにとって
- ・教師にとって
- ・家庭にとって

3. 学び合う家庭科の授業をつくるために

- ・実践事例
- ・「課題」と評価

4. 今後の課題

所属 群馬県立高崎北高校

名前 中根 未奈

プロフィール

中根未奈（群馬県立高崎北高等学校教諭）

担当教科は数学。高校教諭6年目です。生徒が考える力を身につけるためにはどうしたらよいか考えていたところに、他校で数学の『学び合い』授業を見て衝撃を受け、『学び合い』の実践者となりました。

発表内容

自力で読む図形の証明

高校3年次生の数学 A, B の演習を週5時間で担当しています。生徒が『学び合い』で証明を読み、書き、問題解決をする様子をお伝えします。

所属 新潟市立真砂小学校

名前 大島 崇行

プロフィール

大島 崇行（新潟市立真砂小学校）

「高い志のある教師が勤務時間 + 1 時間」の内に最大限努力すれば、家族を幸せにし、かつ担当する子どもたちと保護者を幸せにすることができる」学校世界を創ることを自分のミッションとしている。ミッション実現には『学び合い』が最善だと考え、実践に取り組んでいる。

中学時代の恩師が水落芳明准教授、初任校の教頭が三崎隆准教授であったという不思議な縁をもつ。

実践者が参考にできるよう、『学び合い』実践方法を集めブログでリンクをはっている。 <http://manabiai.g.hatena.ne.jp/t-oshiba/>

発表内容

「『学び合い』の失敗学～成功体験と失敗体験の分析から～」

昨年度から『学び合い』に取り組んでいます。昨年度は試行錯誤の中『学び合い』の実践をし、少しずつ感じをつかめるようになりました。しかし、今年度、蓋を開けてみると、何だかしっくりきません。感動するほど子どもたちが動きません。その状態が6月まで続きました。何とかしなくてはと思い「change!」を図った7月から「おっ！いいな」と感じられるようになりました。この「change!」に何があったのかを考え、分析しました。

失敗学では、その核として「原因究明 失敗防止 知識配布」の3つがあげられています。私の実践を基として、皆さんに「『学び合い』の失敗学」を提供できたらと考えています。

<展開予定>

順調だった昨年度の実践（VTR）

『学び合い』がしっくりこない今年度1学期前半の様子

軌道にのってきた1学期後半の学級の様子

何故しっくりこなかったのか、原因究明と失敗防止の方策提案

- ・教師の考え方・肚の問題
- ・陥りがちな教師の行動
- ・可視化の方法の提案
- ・上がりイメージをもつ
- ・私が『学び合い』を実践していくために必要な教師の力量

<公開ゼミ発表資料>

【所属】大阪市立茨田北中学校(中2担任・数学)

【名前】大原 昌浩

【ブログ】ここに~の『学び合い』~上昇日記~

【連絡先】chance.is.a.necessity@gmail.com

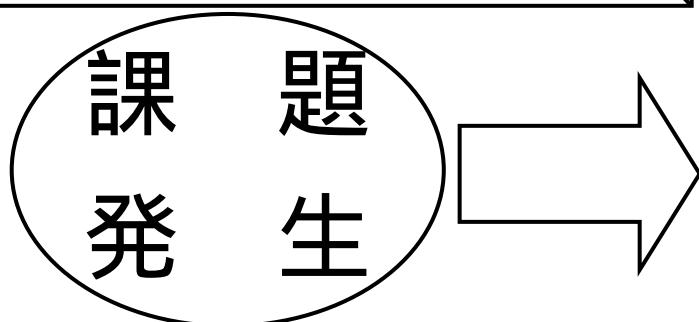
【プロフィール】

2年前の小・中学校の相談員(不登校支援)時代に『学び合い』と出会う。教室に入らずに荒れる児童や不登校の生徒たちと接する中で『学び合い』の考え方に共感する。西川先生のブログを知った数日後に、関西の学生仲間2人とともに西川研究室を訪問。『学び合い』の授業参観や『学び合い』大阪の会を同志と定期的に開催している。現在は中学校の講師(数学)。日々悪戦苦闘しながら、『学び合い』の考え方を取り入れた授業を展開している。

【発表内容】「生徒たちが主体的に課題を解決するための教師の働きかけ」

学級では多くの課題が発生する。その課題を生徒たちが主体となり解決させたい。

<私が目指すクラス像>
20年後の同窓会でみんなが集まるクラス
課題や問題をみんなで解決するクラス



<私の対処方法>
生徒たちから正確に状況を聞く。
クラスで特定の生徒だけの問題でなく、「クラス全体の課題である」と話をする。
「どうしたら解決するか？」を生徒全員に考えさせる。紙に書いてもらう。
~の様子を学級通信に載せる。「この課題を全員で解決しよう！」と促す。
課題が何度も続くようなら、その生徒を個別に呼んで話をする。

<課題例>

【クラス】特定の授業だけ授業が成立しない(私語・手紙を回す・寝る等)。対処しても何度も続く。

【授業】中学生は特にグループ意識が強い。語りを入れて「全員が課題を達成するようにしよう！」と提示しても、グループ以外の生徒となかなか関わろうとしない。

【参加者のみなさんの対処方法・その後の評価方法】

(所属：) 氏名：)

【クラス】特定の授業だけ授業が成立しない(私語・手紙を回す・寝る等)。対処しても何度も続く。

【授業】中学生は特にグループ意識が強い。語りを入れて「全員が課題を達成するようにしよう！」と提示しても、グループ以外の生徒となかなか関わろうとしない。

○所属 上越教育大学 教職大学院 チーム赤坂

○氏名 田中治朗 生方 直 藤田 剛

○プロフィール

上越教育大学・赤坂真二准教授のもとで「人間関係づくり」「学級づくり」について学んでいる大学院生チーム。今回はそのうち現職派遣院生3名が発表します。本学教職大学院の最大の特色「学校支援プロジェクト」では、昨年度2つの小学校に入って支援を行いました。今年も9月から、2つの小学校と1つの中学校に支援に行きます。実際の現場の子どもたちとのかかわりの中で、行ってきた実践の一端を紹介します。

○発表内容

- ①教職大学院・チーム赤坂での学びについて（児童相互の「つながりづくり」のために）
- ②学級づくり・つながりづくりのための簡単なエクササイズ



上越教育大学教職大学院 西川研究室
修士2年 岩崎 太樹

プロフィール

上越教育大学学校教育学部4年(2007)

「『学び合い』授業における学習者の意識と行動 教師の『学び合い』への不安をもとに」
第1回群馬の会, 臨床教科教育学会, 日本教科教育学会, 日本教科実践学会において発表

上越教育大学教職大学院1年(2008)

「授業時間中における教員同士のかかわり合いに関する研究 異学年学習の取り組みを通して」
臨床教科教育学会において発表



今度は**教師も**

『**学び合い**』

こんな「もっと」、ありませんか？

もっと「学校」というコミュニティを確立したい！



もっと他の先生と一緒に活動したい！(子どもの姿を共有したいなあ)
もっと他の先生から学びたい！
(あの先生はどんな語りや言葉がけをしているのだろう)
もっと自信を持った授業にしたい！(授業中に相談できたらなあ)
もっと『学び合い』を他の先生にも伝えたい！(どうしたらいいの?)

もっと子どもが力を発揮できる環境をつくりたい！



もっと子どもの人間関係を広くしたい！
(最近, 人間関係が固定的だなあ。活発にする方法はないかな)
もっと子どもの将来を見据えた環境にしたい！
(社会に出たとき, 同学年だけの環境ってそんなにあるかなあ)

そんな「もっと」を叶えます！ **異学年学習！**



「異学年学習」実践の事例をもとに発表をさせていただきます。
みなさんの毎日をさらに楽しくするきっかけになれば, これ以上のことはありません。

『学び合い』体験教室【1】

みんなで Gundoku

片桐 史裕 (新潟県央工業高校)

加藤 恭子 (北海道伊達市立東小学校)

～本日のメニュー～
5分でわかる群読講座！
群読 de 「学び合い」50分！
シェアリング15分！

5分でわかる群読講座！

Q.群読って何？ A.声の文化活動、教材解釈の音声化、イメージとしては合唱…

Q.群読と斉読の違いは？ A.群読は分担して読む「分読」を行う…

Q.群読の効果は？ A.心と身体が開かれる。言葉を獲得する、表現能力を高める…

個を高める！

ことばを身体全体で自分のものにしていく。
自覚的に声の出せる身体をつくる。
表現力を身に付ける。

集団を高める！

明るい集団のトーンが生み出される。
仲間とともにイキをあわせてしごとを成しとげることを学ぶ。
人にはたらきかけ、感動させる文化をつくる。

群読 de 学び合い50分！

詩や物語の世界を群読で表現しよう！

取り組みの手順
作品をみんなで読む
配役を決める
読み方を考えながら練習する。
練習は教材解釈の「学び合い」です。お互いの考えをぶつけあって作り上げましょう。

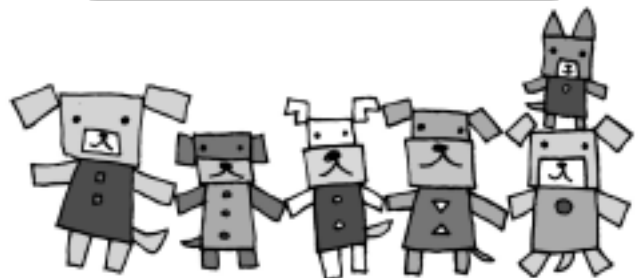
～発表会の手順～

題名を全員で読む
発表
読み手紹介
評価

やって楽しい群読ですが、「発表の場」を設ける(人に聞かせる)ことで、また違ったモチベーションを持つことができます。そして、大事なのが「評価」です。感想、気づき程度でも構わないので、ぜひ行いましょう。批評ができれば最高です。お互いの発表に「学び合う」時間となります。

シェアリング15分！

それぞれの群読体験を交流しましょう。



【1 プロフィール】 今年で教員6年目。紆余曲折、試行錯誤を経て『学び合い』の考えを生かして、子どもたちが本気で動く姿を目指して実践をしています。現在の『学び合い』についての持論は、「全ての先生がやっている（願っている）当たり前のこと」。

初任時、書店で出会った1冊に過ぎなかった『学び合い』。だが、どうして惹かれていったか。それは、シンプルなこと&西川先生が親身に相談mailをくださったこと。要は、自分が学び合う楽しさを実感できたことです。まだまだ悩みも山積みですので、いろいろ教えてくだされば幸いです。

【2 発表内容（模擬授業）】 異学年・異課題の『学び合い』

西川先生は異学年『学び合い』を推奨しています。今日は、異なる年齢、課題であっても『学び合い』は十分に成立することを実感してほしいと思います。今回は、学級活動（『学び合い』学級における課題です）、国語の課題で『学び合い』の考えを生かしたスタイルの模擬授業をします。課題は以下です。

国語の課題は、宮沢賢治「やまなし」の主題をみんなが説明できる。

学級活動の課題は、当日お知らせします。『学び合い』を広めたい方は、ぜひおいで下さい。

【3 参考 異学年の実践記録】

今年度初 人生3回目 異学年『学び合い』

今年初めて行いました。私にとっても人生3回目です。今回は、1・6年生です。1年生の課題は国語「ひらがなを使った言葉を書く」6年生の課題は算数「単位量あたりの大きさの問題を解けるようにする」です。最初にみんながわかるようにしてほしい意義を語りすぐにスタートです。発見したよさは、全ての子ではありませんが、あっという間に1年生に寄っていきました。会話内容も「い」のつくもの、動物であるね、わんわんなくよ」と上手にヒントを与えたり、手をもって教えたりして関心しました。クラスではどよーんとしがちな子がにこにこしています。いきなり答えだけを言っていない。一方で次への課題としては2点です。1点目は6年生の課題の結果を伸ばすことです。いつもと同様に、最後に類似問題を出しましたが、できてのは3割。もっともです。土曜日の相談所であったように自分の課題と相手の課題のバランスが必要ですね。2つ目は、みんなが1年生を前にして超いきいきかと言えばそうではないということです。9割の子はいきいきしていましたが。しかし、異学年、異教科で人間関係の向上だけでコメントするならば、想定どおりと言えます。ふざける子は特にいません。ポイントは結果を求め、異学年で繰り返すことなのでしょうか…。

追伸：よさを追加です。上学年に憧れをもたせ尊敬できるために異学年は有効だと感じます。きっと、行事や縦割りでかかわる方が異学年『学び合い』よりもレベルが高いのだと思います。課題が

 chinji 2009/06/26 23:29 こんにちは。以前ブログにコメントをいただきありがとうございました。

異学年では私も同じようなことを感じています。1年生が上級生を感じてあこがれそれが自然と成長につながっていることを感じます。うまく言葉では表せませんが、異学年を行っていく事で今までよりも卒業式がいいものになっていく気がします！

Blog 6月22日 行列のできる『学び合い』相談所より引用

NIEで「学び合い」

「子ども新聞」を編集する授業

所属 新潟江南高等学校

名前 押木和子

プロフィール

公立高校の国語の教員です。現在1年生の担任で、現代文・古文・漢文すべての授業を担当しています。「読む力」「読書指導」にずっと興味を持ってきました。子どもたちが「読める！わかる！」と感じる瞬間はどういうときに訪れるのかを考え、観察しています。「学び合い」の文化を育て、生徒同士が交流し、一人一人が「なるほど」「そうか」と感じ、自分たちで読み進めていく授業を目指したいです。

1 はじめに

読解力をつけるために、また小論文を書く力をつけるために「新聞を読もう」と私たちは生徒に呼びかけるが、放っておいても生徒たちはなかなか新聞を手にしなない。

宿題にスクラップを課したこともあるが、切ったり貼ったりに熱中して、本当に新聞記事を読んでいるかどうかはわからなかった。

そこで生徒たちに目標を持たせ、仲間と作業させることを通して、自然に新聞を読む力を培いたいと考えた。

2 本日の体験授業

(1) 内容

新聞を使った国語の模擬授業を行う。参加者が生徒役になり授業を検証する。

(2) 授業の目標

「今日の新聞をもとに、小学校5年生向けの『子ども新聞』を編集しよう」

(3) 「子ども新聞」を作る時の条件

対象は小学5年生

8月2日の新聞から、3つの記事を選んで編集してください。

- ・政治経済のニュース
- ・文化・スポーツのニュース
- ・「ほっとする」・「なるほど」・「へえ」と思える記事

(4) 使う道具

8月2日の新潟日報

大洋紙

マジック

はさみ のり

(5) やりかた

4人1班で4つの班に分かれて、それぞれの班で話し合いながら

- ・3つの新聞記事を選ぶ
- ・大洋紙に記事を貼る
- ・記事を端的にわかりやすくあらわす子ど

も向けの見出しをつける

各班から発表してもらおう。(1班3分以内)

小学5年生にわかりやすくするためにどのような工夫をしたかを話し合う。

3 この授業を通して期待できること

(1) 班で3つの記事を選ぶという目的のために、生徒は新聞を丁寧に読む。

(2) 政治経済のニュース、文化・スポーツ・社会の情報などジャンルを意識して新聞を読むようになる。

(3) 班員と記事を選ぶ作業を通して、「編集意図」を考えさせることができる。

(4) 一人では読み飛ばしてしまう記事も班員と読むことを通して理解が深まる。

(5) 5年生にも理解できるタイトルにするために、選んだ記事を読み込み、わかりやすい見出しをめざす。

(6) 発表するという目的のためにグループが団結し、建設的なコミュニケーションをとりあう。

(7) 他グループの発表や他者の批評を聴くことで、自己評価できる。

4 教師の役割

教師は、目標を提示し生徒たちの様子や作品を評価する。班分けを指示し道具を配布したら、作業の様子を見守って立ち歩くだけだ。時々「この班はおもしろい記事を見つけたね」「レイアウトがきれいだね」などと大きな声でいう。生徒が他の班の作業をのぞくことも許している。

5 この体験授業の評価

参加者が学び合える環境になっていたか。

各班で有機的な交流が行われていたか。

発表を聞きながら、発見や学びがあったか。

注 NIE: Newspaper in Education 教育に新聞を

第5回教室『学び合い』フォーラム2009 ～学び合い社会科～

◎プロフィール

阿部隆幸（福島県・本宮市立糠沢小学校教諭）

2005年の夏。福島市で西川純先生の「学び合い」についての講演を聴き、一人一人の子どもたちを大切に
する授業観に衝撃を受ける。以後、小学校社会科を中心に自分なりの「学び合い」授業を模索し続ける。今
までのテクニカルな授業を求め続けてきたことを反省し、「シンプル・イズ・ベスト」を胸に、子どもたち自
身の集団への所属意識を高め、子どもたちを信用する授業を創り続けようと日々考え実践している。

◎発表内容

1 社会科の「学び合い」は難しい？

「学び合い」は考え方なので、様々な教科、領域、
場面で行うことができる。しかし、その中でも「国
語」や「社会科」は「学び合い」をするには難しい
教科といわれる。それはなぜか。

第一に、子どもたち自身で白黒つけられる課題を
設定しにくいからである。技能教科、実技教科のよ
うな「三角形の面積を求めることができる」「逆上が
りができる」「玉結びができる」といったはっきりし
た課題を設定しにくい。もともとはっきりと説明し
にくい社会事象を課題にするからである。抽象的な
課題では、子どもたちの「やってみたい」という興
味関心が薄れる可能性が大きい。

第二に、課題が不明確なためにどのように課題解
決に向かっていけばいいのか活動しにくいからであ
る。第一と関連するが、ゴール（課題）がはっきり
しない。ゴールに向かう手だてや方法に不安がある
のは当然であろう。

第三に、この時間の学習を通して「わかった」の
か「できた」のかわかりにくいからである。ゴール
があいまいなので、これでよいかどうか不安なまま
終わるときがある。

2 社会科の「学び合い」のよさ

では、社会科は「学び合い」学習は不釣り合いな
のか。いやちがう。課題や学習の成果がはっきりし
ている技能教科、実技教科と違ったよさがある。

第一に、学力差を意識させないことである。課題

がはっきりするということは、できるできないがは
っきりするということである。「全員ができる」を目
指す「学び合い」であるが、そこには「いつも教え
る子」「いつも教えられる子」が発生しやすい。その
点、抽象的な課題になりがちな社会科では「教える」
「教えられる」の関係が固定化しにくい。

第二に、考えを交流しやすいことである。絶対的
に正しい解が存在しないことが多い社会科では「教
える」「教えられる」といった上下関係以外の交流、
すなわち「一緒に考える」「相談する」という水平的
な交流が成り立ちやすい。

第三に、他者を尊重しやすくなることである。課
題にもよるが「正解の求め方を話し合う」よりも社
会的事象の当事者の「立場を考える」「考え方を想像
する」ことが社会科の授業では多くなる。自分とは
異なる考えに触れ、正解は一つではないことに気付
き他者を尊重する態度が身につくやすくなる。

3 社会科「学び合い」体験で考えていること

社会科の「学び合い」の「難しさ」を理解しつつ、
「よさ」を発揮できる授業を構築できれば、子ども
たちは社会科の「学び合い」が待ち遠しくなる。

今回は、明治維新を代表する4人の指導者をラン
キングする「学び合い」を通して社会科「学び合い」
の「難しさ」を越えた「よさ」を実感できるように
体験教室を計画したいと考える。

<参考文献>上條晴夫・江間史明編著「ワーク
ショップ型授業で社会科が変わる」(図書文化)

小林秀樹（新潟県三条市立第一中学校）

1 プロフィール

中学校理科教諭、教職22年目。上越大学大学院卒（H15.3月）

大学院時は「中学校理科における異学年の学び合い」を研究。そこで、異学年集団での上学年、下学年の立場の違いがそれぞれの学年に特有な学習効果を上げることが明らかになった。

現在は、学び合いの考え方を独自に発展させ、理科の授業はもちろん、清掃活動や部活動（科学部）、他の教科（英語）等、学校教育活動のあらゆる場面で「学び合い」を実践して成果を上げている。最近では、「学び合い」に興味を持っている先生とTTの授業を行いながら「学び合い」の授業を広めていくことにも力を入れている。

今後の目標は、「学び合い」で生徒の学力向上のみならず、生徒の人生（生き方）にも貢献できる理科授業を目指したいと思っている。

2 発表内容

「学び合い」の授業のコツを教えますよ

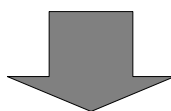
～ ポイントを押さえないと、学び合いは必ず失敗します ～

「学び合い」の授業はやりたいと思っているが、そのやり方がわからず、一步が踏み出せない。そのような先生方のために、確実に、簡単に、成果を上げる「学び合い」実践例を紹介します。

以下のように「学び合い」前後で先生（20代中学校英語女性教師）の気持ちが変化しました。

「学び合い」前の先生の感想

- ・まず、人間関係ができていないクラスでないとやれない。
- ・「さあ、学び合いをしないさい」と言っても、生徒は何もしない気がして不安だ。
- ・「学び合い」は教師が教えるよりも効率が悪く、時間だけかかって学習が進まない。
- ・教師が言っても勉強しない生徒が、教師が注意しなくなると勉強し始めるなんて考えられない。



TTと一緒に授業を行う。

「学び合い」後の先生の感想

- ・いつも寝ていた生徒が勉強して感動しました。
- ・怒らず（注意せず）に授業ができました。
- ・質問していても「わかりません」と言っていた生徒が、生徒の方から質問してきました。
- ・授業していて、「楽しい」と思いました。
- ・今後も、「学び合い」の授業をしたいと思いました。

では、どんな「学び合い」の授業をしたのだろうか？

発表を聞きに来られた方のみにお教えします。

その他、「学び合い」の授業をはじめて体験した生徒についても分析を行い、「学び合い」の授業のメリットとデメリットについて検証した結果を発表したいと思います。

3 「学び合い」を行って感じていること

「学び合い」は目的ではなく手段である。（のために、「学び合い」がある）

「学び合い」を行う前に、教師の教育観（「何のために勉強するか」）が問われる。

「学び合い」の考え方や手法は、成功者（松下幸之助など）の実践と同じである。

「学び合い」は授業以外にも清掃活動、係活動、部活動にも応用できる。

「学び合い」を深めれば、深めるほど「課題提示」「評価方法」に教師の力量を感じる。

「学び合い」への抵抗勢力は根強い。教師の教え方に力を入れている教師も多い。

「学び合い」の実践を重ねながら、学力の向上のみではなく、「先生の授業で人生が変わった」と生徒の生き方にも貢献できる授業を目指したいと強く思うようになった。

（「最近、先生の理科の授業って道徳（生き方）みたい」と言われるようになってきた。）

教室『学び合い』フォーラム2009参加者一覧

	名前	所属
1	今井 清光	明星(みょうじょう)学園中学校
2	柴田 卓也	上越教育大学教職大学院(水落研究室)
3	小林 忠輝	新潟県立新潟南高等学校
4	舟川 宗吾	上越教育大学教職大学院
5	新井 恵美	埼玉県立羽生第一高校
6	本川 良	宮城県石巻市立二俣小学校
7	横山 勇治	宮城県東松島市立小野小学校
8	櫻下 達也	大阪府岸和田市立大宮小学校
9	小林 克樹	上越教育大学教職大学院(水落研究室)
10	竹内 智光	上越教育大学教職大学院(水落研究室)
11	高野 義友	新潟市立中野山小学校
12	松風 幸恵	上越教育大学教職大学院(水落研究室)
13	笠井 将人	上越市立八千浦小学校
14	佐藤 優一	長岡市立大島中学校
15	佐藤 颯太	佐藤優一さんの子ども
16	桐生 徹	長野県松川町立松川中学校
17	田中 靖浩	鳥取県倉吉市立社小学校
18	平野 くに子	群馬県高崎市立新高尾小学校
19	青木 幹昌	群馬県高崎市立塚沢小学校
20	武居 良行	群馬県高崎市立大類小学校
21	小西 裕之	秋田県美郷町立千畑南小学校
22	永野 修	新潟県田上中学校
23	荒木 美恵子	新潟市立万代高校
24	吉川 千晶	富山県富山市立針原小学校
25	鈴木 道治	木更津工業高等専門学校
26	苅谷 和哉	埼玉県所沢市松井小学校
27	高畠 拓嗣	山形県村山市立楯岡小学校
28	及川 明夫	宮城県仙台市立富沢中学校
29	品田 哲明	新潟県長岡市立洪海小学校
30	皆川 ますみ	上越教育大学教職大学院(久保田研究室)
31	若月 利春	上越教育大学教職大学院(水落研究室)
32	関谷 俊彦	上越教育大学教職大学院(藤田研究室)
33	内田 祐介	上越教育大学教職大学院(西川研究室)
34	左古 雄一郎	石川県津幡町立井上小学校
35	村松 一伸	上越教育大学教職大学院(瀬戸研究室)
36	渡邊 智博	上越教育大学教職大学院(西川研究室)
37	井口直子	長岡市立大島中学校
38	大矢美穂	長岡市立大島中学校
39	佐野 美由紀	上越市立里公小学校
40	西山 寿子	上越市立里公小学校
41	加藤 健	埼玉県上尾市立原市南小学校
42	岡村 芳子	新潟市立市ノ瀬小学校
43	森山 真由美	茨城大学
44	黒田 紀子	新潟市立江南小学校
45	井口 直子	新潟県長岡市立大島中学校
46	大地 祥子	新潟県新潟市立有明台小学校
47	石田 千絵子	神奈川県大和市立光丘中学校
48	岡崎 良久	愛知県知多市立岡田小学校
49	井上 高志	上越教育大学教職大学院
50	長谷川 春生	新潟市立五十嵐小学校
51	佐藤 拓弥	伊東市立門野中学校
52	前野 章	福島県金山町立横田小学校
53	若山 浩子	上越教育大学教職大学院(西川研究室)
54	齊藤 亜紀子	上越教育大学教職大学院(瀬戸研究室)
55	山川 奈津子	上越教育大学教職大学院(松本研究室)
56	伊藤 善隆	自由学園初等部
57	佐藤 有子	自由学園初等部
58	阿部 祐治	上越市立飯小学校
59	宗村 詩織	新潟市立新津第五中学校
60	須田 渚	新潟市立新津第五中学校
61	泉田 晶子	新潟市立新関小学校
62	小林 奈緒子	第一学習社
63	原 勇二	長野県飯田市立竜東中学校
64	寺尾 圭美	
65	宇梶 憲市郎	芳澍女学院情報国際専門学校
66	松森 一晃	芳澍女学院情報国際専門学校
67	桑原 久恵	柏崎市立枇杷島小学校
68	和田 泉	柏崎市立枇杷島小学校

	名前	所属
69	西川 純	上越教育大学
70	片桐 史裕	新潟県立新潟県央工業高等学校
71	水落 芳明	上越教育大学
72	白石 誠史郎	新潟市立内野中学校
73	水落 あき子	新潟市立紫竹山小学校
74	栗田 裕子	新潟市立江南小学校
75	大島 崇行	新潟市立真砂小学校
76	美濃山 ゆず	新潟県立柏崎常盤高等学校
77	菅原 聡子	新潟県立新発田商業高等学校
78	押木 和子	新潟県立新潟江南高等学校
79	佐藤 ゆかり	上越教育大学
80	加藤 恭子	北海道伊達市立東小学校
81	星 由希	新潟県五泉市立村松小学校
82	江川 潤	新潟県新潟市立五十嵐小学校
83	三崎 隆	信州大学
84	中根 未奈	群馬県立高崎北高等学校
85	大原 昌浩	大阪市立茨田北中学校
86	生方 直	上越教育大学教職大学院(赤坂研究室)
87	田中 治朗	上越教育大学教職大学院(赤坂研究室)
88	藤田 剛	上越教育大学教職大学院(赤坂研究室)
89	阿部 隆幸	福島県本宮市立糠沢小学校
90	加藤 茂夫	新潟大学
91	阿部 雅也	新潟高校
92	大湊 佳宏	長岡工業高等専門学校
93	小林 秀樹	三条第一中学校
94	古厩 一	長野県生坂村立生坂中学校
95	押田 寛正	富山県富山市立草島小学校
96	土作 彰	奈良県広陵町立広陵西小学校
97	宮崎 紗智代	埼玉県久喜市立本町小学校
98	皆川 孝	五泉市立村松小学校
99	岩崎 太樹	上越教育大学教職大学院(西川研究室)
100	仲田 毅	上越教育大学教職大学院(西川研究室)
101	川合 澄江	上越市立里公小学校
102	田中 真由美	長岡工業高等専門学校
103	飯塚 進	新潟県五泉市立村松小学校
104	千木良 康志	江東区教育委員会

連絡・注意事項

名札が参加証となっております。常時名札を見える位置におつけください。名札が付いていない場合は、受付をしたかどうかスタッフが確認をする場合がありますので、ご了承ください。

また、1日目にお越しで、2日目も参加なさる方は、1日目のお帰りの際に名札を受付にお戻しいたいただき、2日目にお受け取りください。また、シンポジウムに参加なさる方は、名札をおつけのままご参加ください。

2日目（1日目のみ参加の方は1日目）のお帰りの時には必ず名札をお返しいたいただきますよう、よろしくお願いいたします。

各分科会の会場は、配付資料の冊子をご覧ください。お間違いの無いようお越しください。

分科会1の公開ゼミ【4】はこの建物（NSG学生総合プラザSTEP）に隣接している上越教育大学新潟サテライトでおこないます。一度外に出て案内に従ってお進みください。（この冊子に建物配置図があります。）

1日目18：00からシンポジウム（懇親会）をおこないます。当日参加も受け付けておりますので、参加希望の方はお近くのスタッフにお伝えください。5,000円です。

2日目の弁当販売はおこなっておりません。各自ご持参ください。NSG学生総合プラザSTEPの食堂も営業しておりますので、ご利用ください。ご持参いただいた昼食は各会場でおとりになれます。また、ゴミは各自お持ち帰りください。

是非ともアンケートにご協力ください。お帰りの際に各分科会のスタッフにお渡しいたいただくか、受付にお渡しください。

書籍販売をしております。特別価格で販売しておりますので、是非お買い求めください。

教室『学び合い』フォーラムホームページ

<http://manabiai.jimdo.com/>

この大会の情報が掲載されています。

『学び合い』ポータルサイト

<http://manabiai.g.hatena.ne.jp/>

全国の『学び合い』仲間がブログを開設しているグループです。どなたも自由に参加できます。参加ご希望の方は、ご覧いただいて、参加申請をしてください。